

# 経済建設委員会会議録

平成23年12月6日 9時57分 開会  
11時16分 閉会

網走市議会

午前9時57分 開会

### ○佐々木委員長

ただいまより経済建設委員会を開催いたします。

本日の委員会ですが、議件3件、その他1件の合計4件を審議いたします。

委員会の進行ですが、まず、平成23年上半期観光客入込・宿泊施設利用状況についてと2番目、平成23年度除雪計画についてを審議いただき、一たん休憩をとりまして、第4回定例会に関する説明会を開催いたします。その後、説明会終了後に、行政視察の取りまとめについて行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

まず1点目、平成23年度上期観光客入込・宿泊施設利用状況について説明をお願いします。

### ○影近観光課長

それでは、平成23年度上期観光客入込・宿泊施設利用状況について説明をいたします。

資料1号をごらんいただきたいと思います。

平成23年度上期の観光客の入込み数は63万400人で、前年同期比を11.7%下回り、宿泊数は19万6,700人で前年度同期比を8.8%、これを下回ったところでございます。

主な要因でございますが、3月11日に発生した東日本大震災や原発事故の風評被害から、国内外の旅行需要が大きく減少したことが上げられます。国内では、昨年動きのありました道内観光客につきましては、高速道路の無料化実験が6月19日で終了したことによりまして、主に道央圏からの集客が減少傾向に転じていることや、市内大型ホテルの廃業、サンゴ草の生育不良の影響があると考えておりますが、加えまして航空機材の小型化による座席数の大幅な減少により、団体客やパッケージツアーの席の確保が困難となっていることから、本州からの観光客の入込みも減少傾向が続いていると考えております。

一方、プラスの要因としましては、震災の影響から道央圏の中学校修学旅行の研修先が、東北地方から主に道東方面に振りかわったこと、S Lオホーツク号が36年ぶりに運行され、新たな集客があったこと、中体連の全道陸上競技大会等が市内で開催されたことが、一定程度の宿泊数の確保につながっているものと考えておりますほか、大きな部分としましては、スポーツ合宿が延べ人数、過去最高になったことが上げられますが、これら

プラスの要因が先ほどお話ししましたマイナス部分をカバーするに至らず、全体では入り込み数、宿泊数とも大きく減少する結果となっております。

外国人観光客につきましても原発事故の風評被害や円高の影響から、一部、台湾人観光客に回復の兆しが見られるものの、宿泊数は2,989人で前年同期比を67.4%下回っておりまして、大変厳しい状況となっております。

主な観光施設の入館者数も前年同期比で、オホーツク流氷館は17.1%の減、博物館網走監獄は18.1%の減と、ともに大きく減少しておりまして、厳しい状況となっているところでございます。

なお、主なプラス要因とマイナス要因の個別の項目につきましては記載のとおりでございます。

また、2ページ以降に年度別入り込み数調べほか4件の調査資料を記載しておりますので、後ほどごらんいただきたいと思います。

以上で説明を終わらせていただきます。

### ○佐々木委員長

皆様から何か聞いておきたいこと等ございますか。

### ○近藤委員

全体状況として、この数字で見れば女満別空港ジェット化以降過去最低の結果という数字なのですけれども、市として現在の観光の状況、底と見ているのか、それともさらに下がる可能性もあるだろうというふうにとらえているのか、どちらの認識なのか。

### ○影近観光課長

今後の見通しといたしますか、その部分についてはいろいろな経済状況等もあって、非常に難しいということがございますけれども、外国人観光客の部分につきましては、いろいろなファミトリップといたしますか、視察旅行も大勢の方が見えておりますし、親日である台湾を中心としたプロモーションを実施しておりまして、やや回復傾向が見られてきているというふうと考えております。

しかし、10月下旬に札幌から十勝圏まで全面開通しました道央道の影響によりまして、十勝圏域に道央圏の観光客が流れていくのではないかとこの状況もございまして、今が底なのか、今後また下がるかというのは、非常に難しいところだということには思っています。

ただ、プラス・マイナスの部分でございますので、ちょっと本当に難しいのですけれども、外国人の部分と国内の部分とプラス・マイナスというのがあると思いますけれども、外国人のトータルのシェア率というのは非常に低いものがございまして、今後も厳しい状況が続いていくのではないかというふうには思っております。

#### ○佐々木委員長

ほかによろしいでしょうか。

#### ○平賀委員

さまざまな要因プラス・マイナスもあって、このような形で下がってきているというのは、網走のみならず全道、全体的にもこういう傾向あるだろうと思いますけれども、そうはいつでも特に網走を含めたオホーツク圏の入り込みの減少、全体としても大きく低くなってきていると思っておりますが、その辺で圏域としての何か取り組み、多分必要になってくると思うのですけれども、何か考え方とかお持ちですか。

#### ○影近観光課長

広域的な取り組みとしましては御承知のとおり、国際チャーター便の誘致については、女満別国際チャーター便誘致協議会、それから国内的な取り組み、国外もそうなのですけれども、ひがし北海道観光事業開発協議会等を通じて、全体な取り組みはしております。ただ、この取り組みは今まで従前どおりやってきた部分も多いものですから、新たに今回につきましては6月、7月と、これは震災の影響ということでございますけれども、修学旅行生が多く道東地方に振りかわってきたということもありまして、オホーツク地域全体で修学旅行生を迎える体制の協議を進めていくという必要もありますし、網走市内でも修学旅行の対策の協議を各観光関係者等含めて取り組んでいるところでございます。

#### ○平賀委員

来年度以降、修学旅行生が引き続き来もらえる状態が続いていかないといけないというふうな説明されているのだと思うのですけれども、引き続きそういった取り組みを含めて、圏域全体での取り組みをもう少し考え方含めて整理をしていかないといけないのだろうというふうに思いますが、きょうの時点ではこの程度で質問終わらせませう。

#### ○佐々木委員長

ほかによろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

#### ○佐々木委員長

それでは、次の議件に移ります。平成23年度除雪計画について、説明お願いいたします。

#### ○中村土木管理課長

平成23年度網走市除雪計画について御説明いたします。

資料2号をごらん願います。

初めに、本年度の除雪計画の策定に当たり、資料の4ページに添付しております除雪基準要項をもとに前年度の実績と課題を踏まえ、さらには当該地区の除雪計画を道路河川愛護会と協議を行いまして、本計画策定をいたしました。

除雪の目標は、冬期間の交通を確保して、市民生活の安定維持と産業振興に寄与することを目的に、通勤通学路の確保、主要幹線及び歩道の早期除雪に努めることとしております。

除雪路線ですが、資料の3ページに除雪計画資料と、7ページ以降には緊急連絡体制及び除雪路線図を添付しておりますので、ごらん願います。

除雪路線については、3ページの除雪計画資料で御説明をいたします。

除雪路線の市道につきましては、市道認定695路線、延長616.2キロメートルのうち648路線、延長421.1キロメートルを除雪することとしております。今年度は鉄南本通線、通称西山通線が開通となり、除雪につきましては市の直営により実施することとしております。

次に、市道以外の道路で公道、農道、私道については、市街地、郊外地合わせて165路線、37.3キロメートルの除雪を行います。

歩道・階段につきましては、市街地、郊外地合わせて99路線、73.3キロメートルの除雪を行います。

次に、除排雪体制ですが、表の下段に記載しておりますように、市保有車両18台と借り上げ車両48台及び委託車両14台の合計80台で対応します。

雪捨て場については、網走市内に大曲1カ所と潮見に1カ所、合わせて2カ所を確保し、ブルドーザー3台で捨て場の整理を行います。借り上げ車両の業者は、10業者となっております。

また、除雪作業終了後は滑りどめ対策として、融雪剤散布、ビリ砂利散布を行うとともに、市内に42カ所の砂箱を設置いたします。

そのほか例年実施をしております市役所玄関前において、砂袋の無料配付につきましても2万袋を用意いたします。さらに、ロードヒーティングにつきましても市内27路線、45カ所、延長5.4キロメートル、面積2万688平米の敷設状況となっております。

次に、除排雪に関する市民への啓発でございますが、市のホームページに除雪作業の動画等を掲載しているとともに、12月と1月に市広報紙への掲載、さらにはチラシを作成して全戸配布を行い、路上駐車防止、車道への雪出し防止、玄関前間の除雪の協力等と呼びかけることとしております。チラシの内容は、最後のページに添付しております。今後とも市民の御理解と協力をいただきながら、除雪計画のとおり業務を行ってまいります。

以上で、網走市の平成23年度除雪計画の説明を終わらせていただきます。

**○佐々木委員長**

皆様から、何か質問等ございませんか。

**○近藤委員**

ことしの計画は、この内容を読ませていただいて、昨年度と今年度の違い、ここが変わっていない部分、何かありますか。

**○中村土木管理課長**

基本的には同じような体制の中でやるという考えで、今回は鉄南本通線がふえたということで、その部分がちょっと変更になってきているかなということだけです。

**○近藤委員**

ちょっと細かい話なのですが、冬場の道路マンホールの回りだけ雪が解けてしまったりとか、そこがくぼんで車ががたと落ちて傷むのであったりとか、もちろん危ないという声をよく聞く、私自身も危ないなと思っているのですけれども、それに対応する何か方策というものは打たれていない、考えられていないのでしょうか。

**○中村土木管理課長**

今、マンホールというのは下水道課管理の部分でございますが、それについては断熱材を入れることによって、上の雪が解けないようにしようと。どうしてもマンホールの上、熱が上がってきて、その部分だけが雪が解けて段差ができるということで、今、下水道課のほうにお願いをして、断熱材を入れることでやってきて、昨年

からやっていますので、徐々にそれは解消されるのかなということは思っております。

**○佐々木委員長**

そのほかございますか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

**○佐々木委員長**

それでは、議件2件は終わりましたので、ここで一たん休憩をとりまして、説明会に入りたいと思います。

その前に、その他何か皆さんからございますか。

**○近藤委員**

サンゴ草の再生事業について、この間またいろいろと動きがあったかと思うのですが、その進捗状況を確認をしたいのですけれども。

**○影近観光課長**

サンゴ草の再生事業でございますが、9月に議会のほうで補正をいただきまして、東京農大のほうに調査を依頼をしているところでございます。契約につきましては、10月1日に正式に契約をしまして調査をしていただいているところでございまして、10月7日に網走市能取湖サンゴ草再生協議会を設立しまして、網走市・東京農業大学・卯原内観光協会の三者で今後の再生に向けて協議を進めるために、新しく設立したところでございます。その後、網走市測量設計技術協会と網走建設クラブのほうに土砂の撤去等についての作業につきましても協力の要請をしております。

まず、サンゴ草の再生につきましては、ある程度現状に回復するということが必要だという観点から、土砂の撤去をするということで協議を進めてまいりましたが、機械で搬出できない区域、サンゴ草が生えていまして、その一部に生育不良のところがあるということにつきましては、機械ですき取り作業が困難だということでございまして、それにつきましては10月30日に、地域、その他一般市民の方も含めた202名のボランティアによりまして、サンゴ草の地域の群生地内の人力で土砂の撤去を行ったところでございます。

その後、11月23日から11月27日の日程で、網走建設クラブの協力のもとに機械作業により群生地内の土砂を搬出する作業を行ったところでございますが、実際上の搬出作業につきましては、11月23日から26日に完了しまして、27日につきましては地域の方の協力のもとに、当初10月30日に人力の

土砂のすき取り等のほかに、先ほどちょっと言い忘れましたけれども、一部大きくすき取りするところが、種がなくなってしまうという可能性があります。その部分をボランティアの方々に種子の採取をしていただいております。それを保管していたところでございますけれども、その保管してある種子を地域の方の協力のもとに、生育不良の部分、すき取った部分の土地のところまきまして、その攪拌作業を行ったところでございます。その後、網走開発建設部の協議のもとに12月5日、きのう、昨日からでございますけれども、網走開発建設部のほうで築堤上の部分の土砂、それからすき取った土砂の一部を搬出作業を開始していただいているところでございます。

一連の作業につきましては、東京農大の先生の御意見を伺いまして、最適な部分で作業を進めると、協議を進めて御意見をいただきながら作業を進めたところでございます。

簡単でございますけれども、今の状況でございます。

#### ○近藤委員

これまでの経過はわかりました。今後、何か具体的な動きというのはないでしょうか。

#### ○影近観光課長

作業というか、再生に向けての具体的な作業につきましては、今のところ再生協議会の中では、先ほど種をまいたのですけれども、3分の2程度をまいておりまして、3分の1程度につきましては、恐らく5月の連休明けになるのではないかという話なのですけれども、春先に手前部分の生育不良のところに種子をまいて攪拌することによりまして、秋にまいた部分と春にまいた部分がどちらの生育がいいかということで、実証するということしております。

あと、調査につきましては年度途中からの調査で、1年間を通したデータ取りができていないということもありますので、今後もしできれば東京農大のほうに調査を継続してほしいというふうに考えております。

今後につきましては、やはり今回やった成果が、来年どのように出るかというのを見きわめてから対応していくということになると思いますので、それにつきましては再生協議会を継続して開催して、協議をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

#### ○近藤委員

全体状況がわかりました。もう一つ懸案になっていますのは、何でこのような形になってしまったのか、原因の追及ですとか、マスコミ報道では酸性だったというような話もちろちら出ているのですけれども、そのあたりの原因究明については、どの程度進んでいるのでしょうか。

#### ○影近観光課長

最終的な原因の調査結果につきましては、年度末までに報告を取りまとめたいただけという話になっておりますが、今、おっしゃいます生育不良の主な原因としましては、搬入した土砂がその当時は酸性ということではなくて、東京農大の先生のお話ですと、海底の土砂を取ったときに、硫化鉄が含まれている可能性が高いと。その硫化鉄が乾燥している時期になると硫化水素を発生して、そのことによって強酸性になる可能性が非常に高いという話がありまして、そのことによりまして酸性度合いが非常に高くなったと。悪い部分については、ちょっと正確な数字覚えておりませんが、ペーハー3.数%というところがあって、通常の作物については育たないような環境だというような話でございました。そのこともありまして、ある程度土砂の撤去ということを現状回復するということが必要だというように判断したところでございますけれども、土砂のすき取り後すぐにサンプル調査、同じようなところから酸性部分についてだけでございますけれども、土砂の調査をしております。その結果としましては、ごく一部に表面上ゼロセンチから10センチの間に3.数%の酸性ペーハー値を示しているところが1カ所あっただけで、ほかのところにつきましてはすべてペーハー値が上がっております。土砂の撤去の評価があらわれているというふうに判断をいただいているところです。

以上です。

#### ○近藤委員

了解をいたしました。

あともう一つ、サンゴ草に関連して。これは原因とか、過程と、そういうことは全く別の話なのですけれども、市政報告会なんかでサンゴ草の再生事業、市が一生懸命やっていますというお話をすると、市民の方からこういう意見が出るときがあるのですね。そもそもこういう状況をつくっ

たのは、地元の人たちが勝手な判断で土を入れて生育環境を壊してしまったと、それを市や市民ボランティアが何とかしようと再生をしていると。

そもそもその前に、こうなってしまったことについて、地元の人たちから一言申しわけないなり、済みませんでしたなり、そういう話があってもいいのではないかという、要ははじめがないまま再生事業に取り組んでいくのは何か変だという指摘があるのですけれども、それについてはどう考えますか。

#### ○井上経済部長

今、近藤委員の御指摘も含めまして、市といたしましても市民の中に、そういう意見があるということも実は承知をしてございまして、これは第2回目の再生協議会をやっている中で、実はこの当事者であります卯原内観光協会の松下会長のほうから、2回目の再生協議会というのは、今後に向けた対応策について協議をする場ではあったのですけれども、会長のほうから、市民ボランティアも含めた10月末の市民の協力も含めて、お礼も含めて、実はこういう事態に至ったことについて、地元の卯原内観光協会としていろいろ長年やってきた経験をもとにやってしまったということが、大変大きな意味で市民や関係機関等に大変な御迷惑をかけてしまったということのおわびも含めて実はお話がございまして、これについては協議会のときに報道機関たくさん来ていらっやいまして、実際には記事にはなっていないと思えますけれども、そうした場面で地元の協会のほうから、そういうような謝意があったということは事実でございまして、そのことが広く市民に公表されていないということではなっていますけれども、事実としてはそういうことで正式な謝意があったというふうに受けとめています。

#### ○佐々木委員長

そのほか。

#### ○平賀委員

いずれかの時点で、ペーパーも含めて正式に御報告を委員会のほうにされる考えがあるのだと思うのですけれども、今定例会なのか3月の1定になるのか、どういう今のところスケジュールでできていますか。

#### ○影近観光課長

先ほどの説明の中で申し上げましたけれども、東京農大の正式な調査、結果というのが年度末と

いうふうに聞いておりました、その調査結果が出た時点で、一連の流れにつきましてもあわせて御報告をしたいと思っておりますので、そうすると、日程的に3月の定例会の中で御報告をさせていただくという形で進んでいくと思っております。

#### ○平賀委員

わかりました。理解しました。その結果を見てだと思えますけれども、結果次第ではある程度の予算をつけて、来年度も事業としてさらなる取り組みが必要だと思われましても、その辺は結果を受けて一定の予算は確保していく。当初予算になるかどうかというのは、ちょっと難しいのだろうと思えますけれども、補正等で必要であれば対応していく考えがあるということだけ、確認だけさせていただきます。

#### ○影近観光課長

先ほどからお話ししている中では、来年に向けて調査事業を継続していかねばならないのではないかとこのように考えておりますことと、来年の再生の状況と申しますか、サンゴ草の発芽状況と申しますか、そういう状況を見ながら対応していかねばならないというふうには考えております。

ただ、今の時点で、まだ正式に予算とかということにはなりませんので、自分の口からは公表するという、金額を幾らにするとかいう話はありませんけれども、今後の予算要求の中で、この継続の事業についても予算要求はしていきたいというふうに考えています。

#### ○佐々木委員長

そのほかよろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

#### ○佐々木委員長

以上で、委員会を一たん休憩いたします。

午前10時27分 休憩

午前10時50分 再開

#### ○佐々木委員長

委員会を再開いたします。

本年度の行政視察の取りまとめ方法については、9月9日開催の当委員会におきまして各委員がレポートで報告をし、委員会において意見交換を行い取りまとめることで決定をいただきました。

きょうは皆さんからの報告は、それぞれお渡し

の資料にあると思いますので、皆さんから口頭での所感などを報告していただいた後、委員会としての取りまとめを行いたいと思いますので、それぞれ御意見をお願いいたします。

近藤委員から、順番にいきますか。

#### ○近藤委員

細かい部分はレポートに書かせていただいたのですが、結論から言うと、非常に学ぶところの多い行政視察だったというふうに考えております。

宮古島にはエコアイランド構想、環境モデル都市という島全体でゼロ・エミッションであったりとか、自然環境をうまく利用して地域のエネルギーを賄っていきこうという発想で、いろいろと取り組んでおられた。その先進的な事例だなというふうに学んだとともに、そういう新しい取り組みを観光の素材として、外から交流人口を引っ張ってこようという二重の発想が、非常にユニークだというふうに思いました。現在、この網走市でも十分応用できることで、ほとんどスポーツ合宿の先進地であるということの意味して、さらに視察を呼び込むであるとか、まだまだ新しい切り口がこの網走にあると思いますので、そういった意味での新しい魅力の発信の仕方は十分できるなというふうに、宮古島に行って見て感じたところであります。

メインでありますメガソーラーの実証研究施設については、太陽光発電の可能性とともに、現状の限界点も示されたかなと思います。電気というのは、必要なときに必要な分発電をしているという原則論が今あって、ためることができないという状況の中で、メガソーラーの実証研究施設では蓄電池とかナトリウム硫黄電池を利用してためた場合に、地域の電力ネットワークにどう影響が出るかというのを確認しているということで、この研究結果は非常に今後の電力業界、または電力エネルギーを使っている私たちの地域社会において、非常に大きな可能性を秘めているなと思っております。

あと、メガソーラーに関しては、つくるときは非常に雇用を生むのだけれども、できてからは余り雇用を生んでいないというような現状もあって、今、網走で能取漁港にそういうのを一生懸命やっていますけれども、つくってからの雇用創出の戦略を今考えながら誘致を進めるといいうのも大

事かなというふうに思ったのです。

読谷のコミュニティバスについては、これは正直言って失敗事例だというふうに思っています。ただ、失敗事例の中にもそ地域公共交通機関の守り方、守る方策が見えたとは思っています。読谷村の担当課長が言っておりましたけれども、やはり利用者をふやしていくには、ルート、時間帯、本数と、とにかく使いやすいものにしていくしかないというコメントは、今の網走のバス路線を考えても非常に有益な指摘だと思っております。

ですので、網走の市内バス路線を今後存続させていく、利用者数ふやしていくという視点に立ったときには、利用しやすい時間帯、ルート、本数を考えて、お客さんに乗ってもらえるような発想でバス事業者と話をしていくことが必要だというふうに思っていますし、やはり人口集積地でないとバスはもたないというのもまさにそのとおりで、今後、オンデマンド型乗り合いタクシーの運行を考えていくものとして積極的に考えていくべきだろうと。特に二ツ岩、鉄南、あのあたりにバス路線ありませんので、そこを埋める意味でのオンデマンド型乗り合いタクシーのコースを、もうちょっと積極的に検討していく必要があるだろうというふうに感じました。

あと最後に糸満であります。糸満は、かまぼこで地域おこしをやっているということで、かまぼこ屋さんも来ていただいて、いろいろとお話をさせていただいたのですけれども、やはり網走と同じように、かまぼこはその地域の歴史と文化を伝える素材であるという意見が共通してしまっていて、それをまた外に発信していきこうということで一生懸命やっておられるのが印象的でした。

道の駅に直売店を出したりとか、業者さん自身がかまぼこの消費を広げていく取り組みを熱心に行っておられるのが印象的で、まだまだこれからという感じもしましたが、少しずつかまぼこ屋さんの間の連携、さらに商工会とかまぼこ屋さんの連携が始まっているのを見て、網走でも4社しかかまぼこ屋さんがいませんので、かまぼこ屋さん同士の交流、またはかまぼこさんと漁師の交流が広がって、網走の新しい魅力を発信する素材として伸びてほしいなというふうに考えた次第であります。

以上です。

## ○山田委員

今回の視察におきまして、皆さん微妙な受け取り方の違いがあるとあると思うのですけれども、私も私なりに感じたことをこの報告書の中に書いたということで、具体的に一つずつ簡単に言いますと、宮古島は先ほど言ったメガソーラーということがメインであるのですけれども、そのほかに地下水ダムの利用の効果で果実生産が伸びましたとか、そういうところも取り組まれておりました。

そこでやはりメガソーラーをやっている宮古島は、国の大きな資金が入って実験であるとは言っておりましたけれども、将来、脱原発からこういった自然のエネルギーを利用した取り組みは欠かせないということで、すぐには網走ではできないようなものではありませんけれども、今回の視察によってそういうことを進めていくような運動をやっていければいいかなというように思いました。

それから、そのほかに細かいことあるのですけれども、それはそれとして次にコミュニティバスの関係なのですけれども、先ほど近藤委員が言われていましたように失敗例のいいものだなというふうに、逆な意味で役立つというふうに思っています。特に、これは市でも取り組みいろいろされているのですけれども、バス会社の実験機能をもう少し進めて、本当に人が通る時間帯とかあるいは路線とか、そういったものをお金かかるかもしれないかもしれませんが、バス会社がもう少し積極的に研究をしていただければ、ひょっとしたら乗るのではないかと。実際、網走の取り組みをした中では、ほとんど乗らないという話でしたから、実験をして乗らないなら、また別な方策というふうにあるのではないかと。あとは沖縄の場合は、国のお金を当てにしたわけですから、やはりそういうものを利用するとしぼりがあると、実務的ではないというような感じはいたしました。そういうことでバスに関しては、ある意味では逆の効果が本当にあったと私は受け取りました。

それから、糸満のかまぼこによるまちおこし。一つの水産業でこれだけ一生懸命やっているところはなかなかないと思います。網走においては、今、産業においてかまぼこでまちおこしというのは、一応、ギネスブックに載るようなことをやっているのですけれども、かまぼこの消費によっ

てもっとかまぼこ店が売り上げが上がった、そういうことがなかなか難しいのですけれども、かまぼこに限らず別な産業の中で同じような取り組みをできればいいかなというように思いました。かまぼこについては、そのようなことですね。

あと、細かいことについては、総括の中に書いてありますので、それを見ていただければよろしかと思います。

## ○七夕委員

各委員からお話が、余り変わらないのですけれども、特に宮古島の干害事業は、今後、網走の導水管の関係もありますし、人口減少の中でどのような治水対策をするかということで、地下水利用については、今後、考えていかなければならない状態だなというふうに思いました。サトウキビの生産がされやすい状況の中で、その整備が進んで地下水を大量に安定供給することができたということも一つあると思います。今後、こういう事業に取り組むということは、網走にとっていい知恵としてなるかなと思いました。

次、メガソーラーなのですけれども、今後、能取漁港だとかああいうところに誘致も一つには考えがあるかもしれないけれども、まだ時期が尚早なのかなと、メガソーラー等に関して順序を踏まえてやっていかないと、難しいと感じました。実験施設として、あと何年間か猶予を持って、ある程度成果が出てから誘致というほうが、メガソーラーの今後の課題ではないかなと思いました。

あと、コミュニティバスなのですけれども、採算が合わないという考えは皆さんも一緒だと思うのですけれども、当市においても高齢化に伴う交通難民は年々増加していますので、住民サービスの一つの選択肢としては重要な位置づけなのかもしれないなど。ただ、採算性を考慮せずに運行をされる状況はちょっと問題があるので、当市に合った形の事業展開が必要なかなと思いました。

あと、かまぼこなのですけれども、すり身を蒸した蒸しかまぼこではなくて、揚げかまぼこが中心になったということで、うまみも凝縮されてコクのある味わいなものですから、網走とはちょっと変わった違うようなすり身なのかなという感じもして、網走も御当地ブランドとして、産業・市民が携わっているものですから、お互いに発展していった経済交流を高めたらいいかなと思いまし

た。

#### ○平賀委員

まず宮古島ですね、あきらめるものはあきらめて別のメニューでエコアイランド構想を進めていこうとして、そのものを参考にしていかなければならないのだろうと、必要なだろうと思いました。先ほど、七夕委員からも話ありましたが、地下水もそうですけれども、オーバーフローしている水は網走にありますので、そういったものも同じような形では無理だとしても、何らかの形で活用していかなければならないと見ながら感じました。

沖縄電力のメガソーラーですけれども、同じような実証実験を中国電力だとかいろいろな電力会社で実は来年度だとか、その後で実施を予定しているようで、そういったことを考えると、こういう実証実験はきっと海外でもやっているのだろうと。国内でまたもう1回やるということに、それほど必要性はあるのだろうかということですが、そういった言葉には出せませんでしたけれども、感じながらいたのですよね。そういったところもよく考えていかなければならないのかなというふうに思いました。エネルギーを積極的に誘致していこうという取り組みそのものは、来間島の事業も含めて網走でも形を変えて焼き直せばやれるだろうと。国と連携してやれるような事業はあるだろうというふうに確信をしたので、その意味で参考になりました。

それから、読谷村のコミュニティバスですけれども、国の有利な補助を使っているのが痛しかゆしなところがあって、改善策をとるために広告をとるとか何かそういう努力が、やりたくてもできない状況があるのだと、行って見て初めてわかりました。どの程度の大きさのものをやっていくか、さまざまな検討しなければならないですけれども、似たようなものにするのか、先ほどあったようにオンデマンドにするのか、いろいろな方法を含めて網走市においてどのような形で運営をするのか考えなければならないと、改めて思ったところです。

バス会社を取り巻く状況もさまざまな形で来年度から変わってくることも聞いていますので、そういった意味でも市内の公共交通をどう維持するかということは、読谷村の事例を一つの教訓として考えなければならないと思います。

それから、糸満市ですけれども、かまぼこという共通項が網走とあって、調理方法等は違ったとしても、それを使って新たな商品開発だとか料理の開発、贈答品の開発とか積極的な展開がされているのだということがわかりました。いかんせん網走とは距離がありますので、経済の交流をさらに拡大といっても部分的なものしか、なかなか難しいだろうと思いますけれども、手法としては網走でも参考になりますし、かまぼこに限らずこういった積極的な取り組みが網走で求められているのだろうということを感じましたので、そういった意味で商工会議所と向こうの商工会含めた交流などに広がっていけばいいという所感を持ちました。

以上です。

#### ○栗田副委員長

皆さんから種々意見をいただきました。ほぼ重なる部分が多いですが、まず宮古島のメガソーラーというよりも宮古島自体が私は初めてだったので、当初イメージしていた観光地宮古島、第一印象は、やっぱりちょっと寂れつつあるなという気がしました。ある面で沖縄観光と北海道網走観光も含めた中で、二極化して沖縄に行くか北海道に来るかという選択肢を東京の人たちがしています。その中で今のところ、航空運賃のいろいろな安さとかいろいろなことで、本島と宮古島、那覇から5,000円程度で、今、飛べるような運賃設定になっているらしくて、そういう意味で宮古島には何とかの観光ダイバーの人たちも入れているという状況もお聞きをしましたけれども、ある面で私たちの地域とそういう部分で競争、ライバル関係にあるのかなという気がしていました。

そういう意味からの観光部分もよく見せていただきましたけれども、若干寂れているのと、まちの部分も夜出て歩いた範囲では、かなり寂れていっているなという気がしました。当地網走も、もちろんそれ以上に寂れているものですから、そんな今、状況なのかなという気がしました。

肝心のメガソーラーなのですが、宮古島はほかに電気のいる、流していないし、本島からももらっていないという実験には適した地であるということなのですが、実は大きな電力消費をする工場がないですね。電気は何が大切かというのは、安定供給させるためのヘルツ、皆さん知っていらっしゃるように50ヘルツ、60ヘルツ、向こうは多分

60ヘルツなのですが、ヘルツの安定が最大のテーマなのですね。それを安定供給させないと、大きな工場は大変なことになるので、残念ながら宮古島規模の電力需要では、そういうことまでは実験できないということがまず一つと、近藤委員とかいろいろな方からも言われているように、ためられない現状というのがわかっただけでも非常に参考になりましたし、現在、しばらくの間はそれだけ大容量の電気をためることは不可能であるという限界も感じました。そのとおりであります。

では、網走に持って帰ったときに、もう北電さんに何回かお話聞きに行ったのですが、能取にメガソーラーつくったときに、送る線はありませんよと。札幌方面に送る線はないのですよということだけ理解した上で、皆さん議論してくださいというお話もされましたので、向こうからもらう電気は少なくてもいいから細い線で来ているわけですよ。メガソーラーで大きな電力を発電したときに、それを向こう側に送ってやることができないということで、その分のコストも十分吟味した上で議論なされたほうがいいのではないかという話が、北電もされましたし、次いで申し上げますと、泊の電気がないと、北海道の電気を今、安定供給させることはまず現状では無理だと。あれが100%ベースで行って、3割がベースの上に火力で調整をしながら、安定供給しているのが今の現状であるということでした。その議論は、またほかの機会にしますけれども、ある面で今、3・11以降の原子力云々に関することによってメガソーラーが脚光浴びたわけですから、当然、こういう自然エネルギー、折れた風車もちょっと気にはなりましたが、どうして折れたのかというのは、この間テレビなんかで見ていると、強風による遠心力で折れるらしいですね。風力で折れるのではなくて、遠心力で折れるということがあったので、そういう影響なのかなということも気にはなりました。

いずれにしても宮古島自体が自活している島ではないですから、ほとんど観光頼りの国の補助金頼りで生きているというのが現状ですから、そういう中では基地価値としてはあるのでしょうけれども、これから将来性、産業が起きて云々というのは、なかなかあの小さい島では厳しいのかなと。観光に頼りながら細々とやっていくのかなというようなイメージを持ちました。

読谷村、行く前から皆さんはわかっていたのでしようけれども、もしかしたらうまくいっているのかなというような意識でいたのですが、案の定、現実的にはやっぱりほんと失敗だと思いました。担当の方々も、それが目的ではないような物の考え方だったので、それはそれとしての沖縄、私も報告の中に書いていますけれども、沖縄特質の補助金体質ですから、財政体質ですから、それもしようがないなど。

では、網走は何が必要なのかというと、やっぱり皆さんも出ているように、デマンド型というのがどうしても必要とされるだろうと。デマンド型、一番端的に手取り早いのはタクシー、ジャンボタクシーとか、一般タクシーを効率よく活用するのが一番近道のような気がするのです。その辺を行政としてとらえて、フォローしていくかというのが今後の課題だと思います。

糸満は知ってのとおりあれなのですが、かまぼこでまちおこしはできません。これはあり得ない。一つのイメージ措置としては必要かもしれないし、網走とのそういうあれでもあるのですが、これが中心になってやるという市場規模ではないです。商売になりません。それをわかった上で僕らも見て、姉妹都市の関係もあるので、七夕委員のほうから出ていましたけれども、商売上でうまくつながっていかないと、最終的には友好都市というのはなかなか難しくはなるのですが、では網走の商売向こうに持って行ってやって、居酒屋さん何軒かつくってやっていけるのか。では向こうの沖縄料理の店をこっちへ持ってきて、ヤギ食わせたらいいのかというのはちょっと、いささか厳しいのかなという気はするのですが、できるならば採算という部分をちょっと置いておいて、ああいふ道の駅なんかにも網走の特産物、そういうときはかまぼこは有効だと思うので、これは網走産のはんぺんですよとか、かまぼこですよというのが展示されるようなつながりをとっていくと、ある面で友好都市という部分と経済の交流というのもできるのかなという気がしましたが、何度も言いますが、かまぼこだけではちょっと厳しいのかなという、本当にこれで商売成り立っているのかなという部分が、近藤委員たつての希望で行きましたけれども、これも失敗だったというふうに感じます。

一応、全体でしたが、ちょっと一言、最後に一

っだけ、やっぱり沖縄まで行くのだったら、ちょっと日程的にタイト過ぎたなど。まだまだいろいろ勉強したいところもあったので、これは活性化会議の中でもいろいろ出ていますけれども、余り日程とかそういうことにこだわらないので、もう1日あると非常によくまだ勉強できた部分もあったので、その辺のところを今後の検討課題などと思いました。近いところでしたらいいのですけれども、はるか最果てなので、移動に時間が取られすぎて、かなりタイトだったなという気がしました。

以上です。

#### ○佐々木委員長

皆さんの報告書に基づいて所感をお話していただきました。本当に宮古島に関しましては、非常に私の強い希望で行ったということで、非常に強い思いで行かせていただきましたが、観光とエコアイランド宮古島というものがどこまでつながっているかという、ちょっと見えない部分がありまして、非常にその点は残念でした。正直なところ。ただ、宮古島のエコアイランド構想については、思っていた以上に非常にさまざまな視点を持って、しっかりとした構想をこれからもやっていこうという意味では、非常に私には強いインパクトを与えられる構想のお話でした。

国交省のほうからも職員が出向までしてきて、さっき皆さんそれぞれ感じられた宮古島の衰退化しているまちを、どうやって少しでも元気づけるのかというような国の思いを感じたなというふうにしてきました。その点では、北海道に関しては同じ観光を主とした自然豊かな北海道という意味では、国からの大きな支援というのはそんなにないまま、公共事業という点では随分大きな部分があるとは思いますが、そういう点では沖縄の宮古島というのは一つの参考としての段階ではなかったかなと、ちょっと反省点ではあります。

あとは、読谷村にしましても糸満にしましても本当によかったし、ふだん思うのは百聞は一見にしかずということで、プラスにしてもマイナスにしてもまずは行って、そこに身を置いて見てくるということで、いろいろなものを感じ取ってくるというのが視察だと思っていますので、それぞれその中で皆さんさまざまな感じ取り方をしてくださったので、今回の行政視察については、非

常に厳しい日程でもありながら、充実した行政視察になったのではないかと、総括的には思っておりますので、今回のこれを一つの土台にしまして、特に山田委員、近藤委員は新人で初めての行政視察だったと思いますので、どんな行政視察をしたらいいのか、またどんな視点で今度は自分たちが2回目、来年、2年間のうちの2度目の行政視察、どんな視察をしたらいいのかというのを今からいろいろな自分たちの構想の中で探していただいて、今回以上に充実した行政視察をできるように、アンテナを張っていただいて提案もどんどんしていただきたいなど、そんなふうに今回思っておりますので、今回行政視察のまとめにつきましては、皆さんさまざまな視点で得るところ、または読谷村のように本当にこういうことはやはり難しいのだなということを見近に見た中で、網走もそういう人口動態の中でデマンド型の交通システムを、それらのものをどうやったら網走でできるのかということも、また具体的な提案なんかもしていただきながら、この行政視察を反映させた委員活動にしていきたいと思っていますので、これからもしっかりと皆さんで協議しながら、経済建設委員会としていい発信をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で、委員会を終了いたします。

午前11時16分 閉会